

# 2026年度 安全計画



## 安全方針

1. 私たちは、安全は事業の根幹であるとの信念のもと、お客さまの安全を最優先します。
2. 私たちは、安全に関する法令及び規程を遵守し、全社員一丸となって安全の確保に取り組みます。
3. 私たちは、PDCAを確実に実施し、継続的な改善見直しを行ない、常に安全性の向上に努めます。
4. 私たちは、安全で安定した輸送を変わらぬ使命とし、お客さまに信頼され、地域に愛されるしなの鉄道を目指して挑戦します。

## しなの鉄道 安全の使命

「お客さま、社員、協力会社社員の死傷事故 0」

「運転事故、インシデント 0」

### ◎ 2026年度 安全計画の基本方針

安全とは、結果として事故やトラブルが発生しない状態であるが、それは偶然に得られるものではなく、日々の業務の中で「決められたことを理解し、確実に実行する」積み重ねによってのみ達成されるものです。

2026年度は、安全方針が「理解している」で止まることなく、各職場・各社員の具体的な行動として実行されているかを重視します。

職場での対話を通じて安全行動を確認・支援し、「事故が起きなかった」ではなく「事故が起きない状態を作れたか」を問う一年とします。

## 1. 安全マネジメント体制の充実・強化

### 目指すべき方向

安全方針や安全計画の基本方針に対して、具体的な行動につなげ振り返りを行い、会議・監査を実効的に活用します。会社全体の安全レベル向上を図り持続可能な安全マネジメント体制を確立します。安全のPDCA(継続的な改善見直し)を確実に実施して安全の確保に取り組みます。

#### (安全方針の浸透)

1. 全社員が、安全方針や安全計画の基本方針に基づいた具体的な行動をとれるように、職場ごとの行動目標を設定し、さらに個人の行動目標へと具体化します。また、現場長による面談での進捗確認を通じて継続的な改善を図るマネジメント体制の仕組みを構築します。

具体的目標 ・全社員が安全方針に対する具体的な取組みを設定し、面談は年2回以上実施

#### (安全推進委員会)

2. 安全推進委員会で、各箇所の安全計画に対する進捗状況を共有し、目標の完遂に向けた対策を議論し方向性を共有します。

具体的目標 ・安全推進委員会での各箇所進捗報告実施率100%

#### (運輸安全マネジメント)

3. 運輸安全マネジメントに係る内部監査員および各管理者が現状把握のため定期的に現場を確認し、課題やリスクを抽出するとともに、その内容を内部監査に反映させ改善を行います。

具体的目標 ・各管理者、内部監査員 年間4回

(内部監査員は上期2回、12月以降2回)

#### (人材育成)

4. 新たに設置する安全研修施設を効果的に活用し、会社全体の安全レベルの向上のため、プロパー社員を対象とした安全に関する集合研修を行います。新入社員研修、各職場での教育にも活用します。

具体的目標 ・集合研修を全社員年間1回以上受講

## 2. 安全を理解し、安全に対する感性を磨く

### 目指すべき方向

過去の事故や他社事例を活用した教育や体験型研修を通じて「ルールの成り立ち」「ルールを守ること」を学び、安全の重要性を理解します。ヒヤリハット等を分析・共有し、社員一人ひとりが危険を自分事として捉え、安全に対する感性を継続的に磨き、気づく力・考える力・行動する力を高めていきます。

#### （仕事の本質の理解）

1. 過去の事故や他社事例を活用し「ルールの成り立ち」「ルールを守ること」を学び、事故の重大性や教訓を自分事として考える教育を実施します。各システムで発生した事象の対策の振り返りを行います。

具体的目標 ・集合研修等も活用して全社員年間1回以上受講（受講率100%）

#### （安全向上プロジェクト）

2. 昨年度立ち上げた「安全向上プロジェクトチーム」により、安全に関する教育訓練施設の設置を行い、メンバーが主体となり集合研修を実施します。現場長との連携を図り安全計画に基づく取組みについて共有し職場の安全への理解を深めます。

具体的目標 ・現場長とメンバーの安全に関する打合せ月1回以上  
・6月の脱線を振り返る日までに一部運用開始、設置でき次第運用開始

#### （安全の感性の向上）

3. 危険に気付く力・考える力を高め「危ないと感じたら迷わず列車を止める」教育を行い、些細な事でも速やかで正しい報告ができる取組みを行います。

具体的目標 ・各職場の特情に合わせた教育を年3回実施

#### （ヒヤリハット）

4. ヒヤリハットやマイグッド事例を分析し、リスク対策を強化しつつ水平展開を行います。また、新たに「想像ヒヤリハット（仮称）」を収集しリスクを把握し改善します。

※想像ヒヤリハット（仮称）…実際に発生した事象だけでなく、鉄道に関して危険が潜んでいると感じたことを記載し報告する

具体的目標 ・ヒヤリハット、想像ヒヤリハットの報告 年間4件以上/人

### 3. 部内原因による事故・事象の撲滅と外的要因によるリスクの低減

#### 目指すべき方向

決められた作業を欠いたことを原因とする事象の発生ゼロを目指し「私の安全 ABC」を全員が確実に実施し、現場長が実施状況を確認するとともに、外部知見を取り入れたヒューマンエラー分析に基づき部内要因を減らします。あわせて、自然災害などの外的リスクに対し、設備対策や異常時訓練、関係機関との連携を強化し、事故・事象による被害を最小限にする体制を確立します。

#### (ヒューマンエラーの防止)

1. ヒューマンエラーの発生を防ぐため「私の安全 ABC」を全員が確実に実施し、各現場長が面談で実施状況の確認を行います。

具体的目標 ・ヒューマンエラー発生件数 前年度比 -1 件以上

・死傷事故に繋がりにかかない

信号、速度超過、ドア扱い、保守作業、触車、感電、墜落 0件

#### (ヒューマンエラーの分析と対策)

2. ヒューマンエラーとその分析について、外部知見を取り入れより具体的事例の分析を行い、正しい理解と適切な分析に基づいた事故防止に取り組みます。

#### (災害への対応力向上)

3. 地震、台風等の大規模な自然災害などの外的リスクに対し、より防災、減災にあわせた訓練を計画的に実施します。

実施訓練 ・総合防災訓練、車両疎開訓練の開催

#### (異常時に備えた訓練)

4. 異常時を想定した訓練を関係箇所、警察・消防等と実施し連携体制を強化します。

実施訓練 ・昨年度実施訓練を改善し継続実施、必要により新たな訓練を設定

※安全ABCとは、A=当たり前のことを、B=ばかにしないで、C=ちゃんとやる の意味。

## 4. 設備の安全性向上

### 目指すべき方向

老朽化が進む線路設備等について計画的かつ重点的な更新・修繕を進めるとともに、工事量の増加を踏まえた施工管理体制の強化や設備管理方法の効率化を図り、外部の技術や知見も活用しながら、中長期的な視点で設備の安全性向上と予防保全の推進に取り組みます。

#### (工事の安全性の向上)

1. 工事量の増加を踏まえ、施工計画や工事管理体制の見直し・強化を行い、現場の安全パトロールを重視し安全確保を徹底します。協力会社向けの事故防止会議、巡回等で安全方針や重点施策を共有します。

具体的目標 ・安全パトロール実施回数 前年度比 100%以上(前年度 67 回実施)  
・夜間安全パトロール 毎月 1 回以上実施

#### (計画的な工事の実施)

2. 老朽化が進む線路設備等について、優先順位を明確にした計画的な更新・修繕を実施します。

具体的目標 ・計画された設備投資、修繕 実施率 100%

#### (管理の効率化)

3. 設備管理台帳等の運用を見直し、設備管理業務の効率化と確実性の向上を図ります。

具体的目標 ・設備管理台帳の更新準備、点検実施率：100%

#### (昼間時間帯の工事)

4. 昼間時間帯工事を安全かつより効果的に、沿線への影響を少なく実施できるよう施工方法等を改善したうえで実施します。

具体的目標 ・早めの情報周知と丁寧な案内により、お客さま、沿線住民からの苦情 0件  
・作業時間を 1 時間延長し、1 件あたりの工事量の増加を図る  
・施行後のアンケートにおける安全性及び働き方改革の向上実感 50%以上  
(前年度結果 44%)

#### (安全のための設備強化緊急対策)

5. 「安全のための設備強化緊急対策」によるリスク低減効果を明確にするために見える化を図り報告します。

## 継続する取り組み

### 1. 「安全マネジメント体制の充実・強化」の具体的取り組み

- (1) 役員による現場安全点検の実施、安全推進委員会を現場開催し安全座談会も開催します。
- (2) 内部監査とマネジメントレビューで、安全マネジメントの有効性を確認します。
- (3) 各現場の教育、訓練課題の解決策を講じ、管理者の安全感性向上を図ります。
- (4) 安全の取り組み報告をする安全大会を実施します。
- (5) 年齢や雇用形態に応じた業務や管理体制を整えます。

### 2. 「安全を理解し、安全に対する感性を磨く」の具体的取り組み

- (1) 現地見学、体験や他職場の取り組みを通じて危険感受性を高め、学んだことは自分の言葉で周囲に伝えます。

### 3. 「部内原因による事故・事象の撲滅と外的要因によるリスクの低減」の具体的取り組み

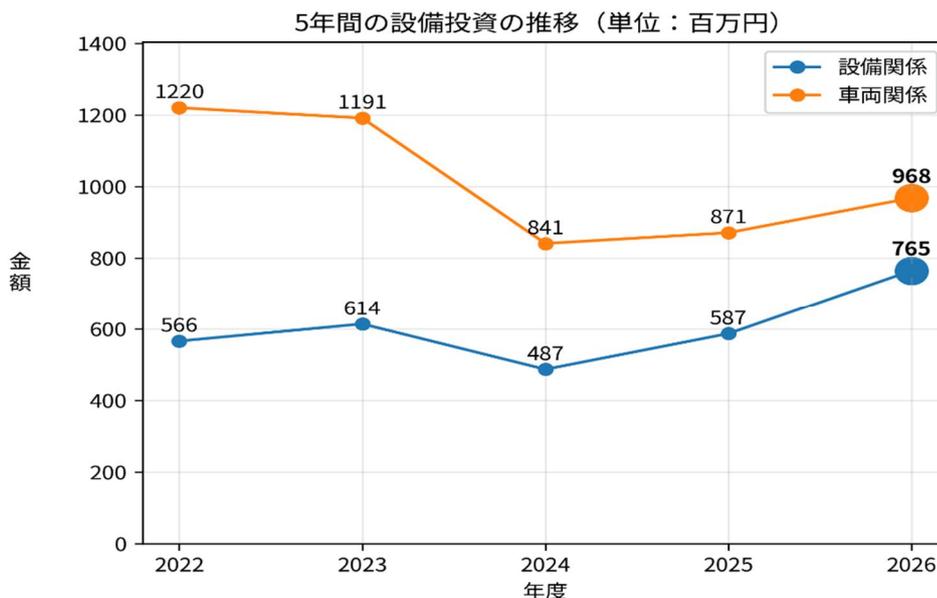
- (1) 安全推進委員会で原因究明や再発防止、対策の有効性確認を行います。
- (2) 管理者が現場とルールとの乖離を見直し、法令順守を徹底します。
- (3) シミュレータやVRを使った体験型のヒューマンエラー教育を行います。
- (4) 外部研修やセミナーに積極的に参加し知識を高めます。
- (5) ICカード導入による駅体制見直しや必要な訓練を行い、安全向上に取り組みます。
- (6) 気象情報や現場報告を集め、計画運休などで災害リスクを減らします。
- (7) 他社の手法を参考にリスク頻度、重大性を評価し重点管理すべきリスクを選定します。
- (8) 運行状況は情報配信システム等で速やかに関係機関へ共有します。
- (9) 無人駅の防犯・事故対策を検討し、お客さまが安心できる環境を整えます。

### 4. 「設備の安全性向上」の具体的取り組み

- (1) 「安全のための設備強化緊急対策」として、分岐器や老朽レール、PCマクラギ、道床の大規模更新を行います。工事の進捗や成果は関係機関と共有します。
- (2) 設備管理を予防保全型へ転換し、線路モニタリングシステム導入を準備します。
- (3) 現設備を見直し、必要なものを選定し、簡素化への転換方法や費用について外部意見も参考に検討します。
- (4) 専門機関の知見や外部研修を活用し、設備検査、管理と人材育成を推進します。
- (5) 2027年度までの車両更新は、国などの支援を受け計画的に進めます。

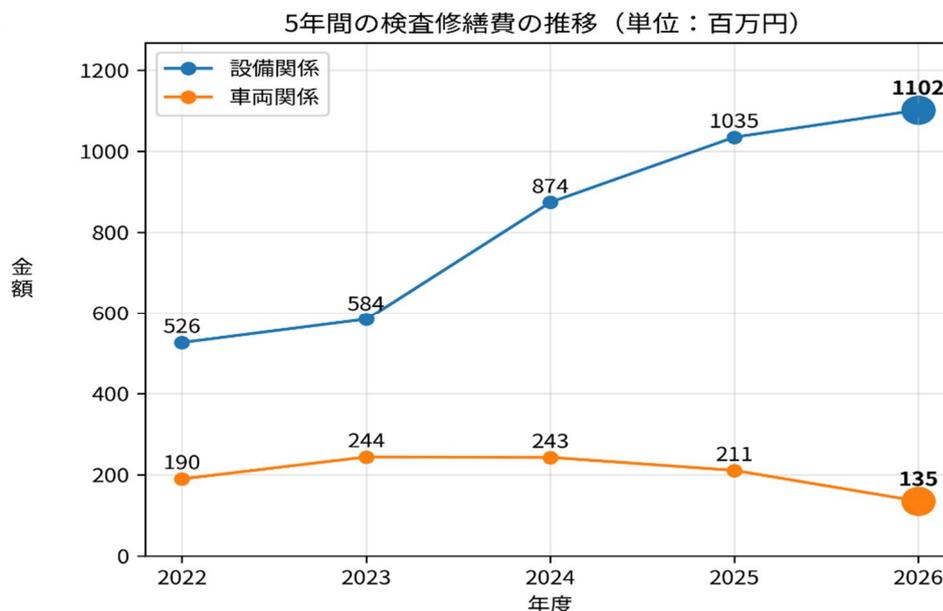
## 《安全設備整備計画》

### (1) 設備投資



- 主な件名 《設備関係》
- ・分岐器交換・ロングレール交換・道床交換硬質化・踏切改良・落石止柵改良
  - ・変電所断路器取替・変電所保護継電器取替
  - ・軌道回路用電源装置更新
  - ・CTC駅装置更新等
- 《車両関係》
- ・車両更新等

### (2) 検査修繕



- 主な件名 《設備関係》
- ・線路及び土木構造物（橋梁等）の検査修繕
  - ・電力及び信号通信設備の検査修繕
- 《車両関係》
- ・各種検査（重要部検査、指定保全等）、修繕

※ 2022～2024年度は実績額、2025年度は見込額、2026年度は計画額